

ゼネラルパッカー通信

平成26年7月期(第53期)

2013年8月1日▶2014年7月31日

証券コード:6267



包装システムのトータルプランナー

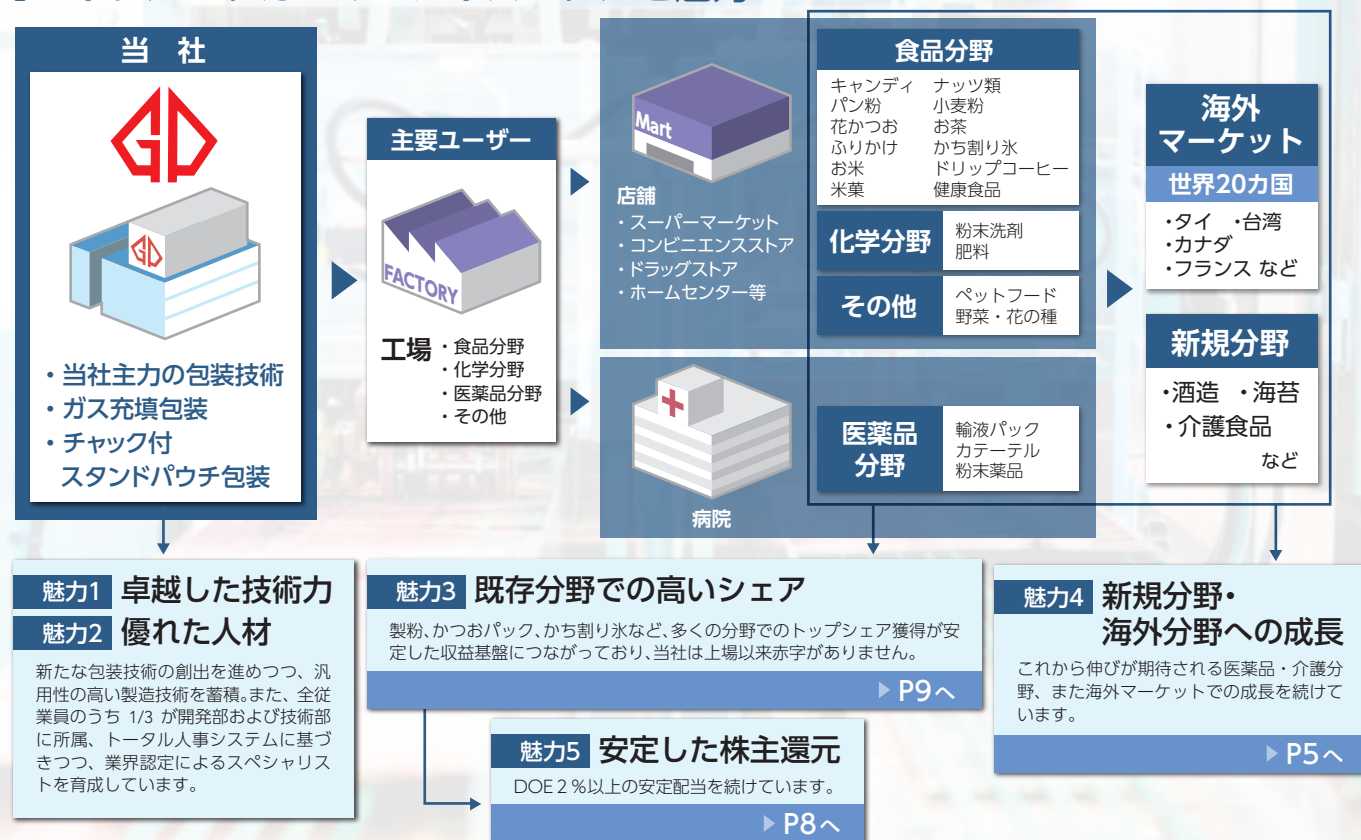
ゼネラルパッカー株式会社

創造と挑戦 — 感ずる、信ずる、行動する —

経営理念

わが社はずねに、独創的な技術を活かし、
顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

「ゼネラルパッカー」のビジネスモデルと魅力



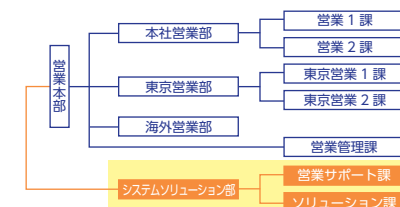
顧客の期待にワンストップで応える「システムソリューション部」を新設

ソリューションビジネスの拡大に向けて、平成26年8月1日付で「システムソリューション部」を新設しました。旧システム営業部を営業本部から分離させる形で設置し、その下に「営業サポート課」と「ソリューション課」の2課体制を敷いています。

現在、国内包装機械市場の成長は頭打ちの傾向を示しているとともに、包装機械メーカーは多様化する顧客からの高度なニーズに柔軟に対応する必要に迫られています。その中で当社はかねてより包装機単品のみでなく、包装プロセスのトータルな提案・販売を行って来ましたが、そのさらなる強化を図ることで提案型企業としての強みを生かしていきます。現在好調の株式会社ワイ・イー・データとの協業によるロボット応用製品も、システムまで含めたトータルな提案力が生かされた結果と言えます。こうした取り組みをさらに進めることで顧客の要望への対応力を上げ、顧客満足度の向上を図るとともに、受注拡大を進めていく方針です。



▲ロボット応用システム (ワイ・イー・データとの協業)



「縦トレイ挿入機付給袋自動包装機GP-2000UR型」が注目を集めた「2014中部パック」出展

包装・食品機械やシステムを中心に物流機器や包材・食材までを網羅した、中部地区最大規模の総合展示会「2014中部パック」が、4月9日から4日間にわたり開催されました。会場の「ポートメッセなごや」には、食品会社および関連機器、包装資材メーカーなどを中心に224社が出展し、4日間合計で67,000名を超える来場者が訪れ、盛況を極めました。

当社の出展ブースでは、さらなる技術革新を導入したモデルを含む給袋自動包装機5機種と、機能強化した新型印字検査装置を紹介しました。その中でも特に注目を集めたのが、給袋自動包装機「GP-2000UR型トレイ挿入仕様」です。これは従来の汎用型主力機種であるGP-2000型を改良することで、これまで専用機種で行っていたトレイと乾燥剤の封入を完全自動化し、毎分30~40袋のトレイ菓子生産を実現したものです。また、縦型トレイ自動挿入装置の導入による省スペース化や、U給袋装置の搭載によるシール不良軽減、品質安定化も大きな特長です。

引き合いの多い展示機種 GP-2000UR型



▲縦トレイ自動挿入装置

▲U給袋装置

新中期経営計画を通じて海外市場を開拓し、 持続的成長を実現してまいります。



代表取締役社長 **梅森 輝信**

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚
いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに、当社第53期（平成25年8月1日から平成26年7月
31日まで）における営業状況と、次期の見通しをご報告
させていただきます。ご一読の上、当社事業への深いご
理解のもと、今後の成長に一層ご期待くださいますよう
お願い申し上げます。

当期の事業環境と営業の成果

包装機械業界の事業環境は、食品メーカーにおける設備投
資の拡大を受け、好調に推移しています。平成26年1月から6
月までの包装機械および荷造機械の生産金額は、消費増税前
の駆け込み需要もあり、前年同期比11.9%増となりました。
四半期ごとの生産金額は400億円を超える高水準を維持して
います（経済産業省 生産動態統計確報より）。

そうした中で当社は、大型案件の増加などにより、過去最
高額の機械受注高・受注残高を確保し、売上高は2期連続で過
去最高を更新しました。また、前期実績の倍額に近い増益と
なった営業利益をはじめ、各利益段階においても大幅に増加
し、期初予想を上回る成果となりました。

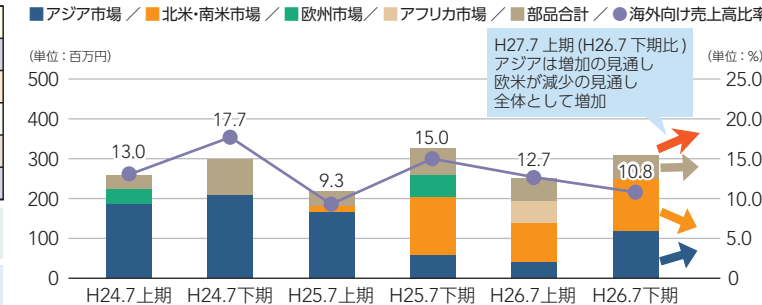
売上高を品目別に見ると、給袋自動包装機は高価格機種
の販売台数が減少したことにより、前期実績を下回りましたが、
製袋自動包装機は販売台数を拡大し、包装関連機器等は大型
包装システムの販売が増加したことから、いずれも増収に寄
与しました。また、エンドユーザーの業界別に見ると、食品
業界向けの売上高が前期比21.8%増と躍進する一方、化学関

海外市場向けの売上高

H26.7 期実績	前期比	+16 百万円
アジア市場	前期比	△68 百万円
欧米市場	前期比	+16 百万円
アフリカ市場	前期比	+54 百万円
部品	前期比	+14 百万円
海外向け売上高比率		11.5%

<アジア市場>
東南アジア市場向けが中心 / 日系企業、現地企業

<北米・南米、欧州市場>
ドライペットフード向けが中心



連業界向けは同40.3%減となりました。

海外市場向けの売上高は、欧米市場のペットフード用が増
加し、アフリカ市場においても日系食品メーカー向けおよび
ペットフードメーカー向けの販売実績を上げましたが、アジ
ア市場における販売台数の減少により、全体としては前期比
微増にとどまりました。

第4次中期経営計画をスタート

当期は、平成24年7月期から3か年にわたり取り組んできた
第3次中期経営計画の最終年度でした。この旧計画では、一部
の目標数値が未達となったものの、「売上高44億円」「当期純
利益1億5千万円」「ROE（自己資本当期純利益率）5.0%」に
ついては、確実にクリアすることができました。しかしなが
ら、事業領域の拡大テーマとして掲げた「新規分野と海外市
場の開拓」が十分に進展できなかったこと、また、品目別売
上構成比の変化により経常利益率の低下が生じたことにつ
いては、課題を残す結果となりました。

今後、当社が持続的な成長を遂げていくためには、自社機
の販売拡大による収益性の向上と、海外市場の開拓に向けた
営業強化が求められるものと認識しています。

こうした反省を踏まえ、このたび策定・始動した第4次中期
経営計画（平成27年7月期～平成29年7月期）では、「持続的
成長に向けてグローバル企業を目指す」をテーマに掲げ、3つ
の経営ビジョンと6つの基本戦略に基づく取り組みを進めてい
きます。そして3年間の計画期間を「海外市場での成長基盤構

築の時期」と位置付け、戦略的投資を増加させながらも、収
益拡大を果たしていく考えです。経常利益は一旦減益となり
ますが、安定的な利益成長を目指します。（第4次中期経営計
画の詳細についてはp5、6をご参照ください）

次期の見通しについて

平成27年7月期については、前述の通り、期首の受注残高
が大幅に増加しているものの、当期における大型案件集中の
反動により、上期の受注が減少する見通しであり、下期は大
幅な減収を予想しています。また、売上総利益については利
益率の改善が期待できますが、成長に向けた戦略的投資の実
施に伴い、販売費及び一般管理費が増加する予定です。

そのため次期の業績については、売上高45億円（当期比7.2
%減）、営業利益2億8百万円（同9.0%減）、経常利益2億1千万
円（同10.5%減）、当期純利益1億4千万円（同12.3%減）と、
減収・減益を見込んでいます。第4次中期経営計画を着実に遂
行していくことで、平成28年7月期からの業績再拡大を目指
します。

当社は、食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じ
て、より大きな社会的貢献を果たすべく、引き続き一層の努
力を重ねるとともに、業績の向上と健全な企業経営に努めて
まいります。株主の皆様におかれましては、当社事業への継
続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

海外市場での成長基盤構築

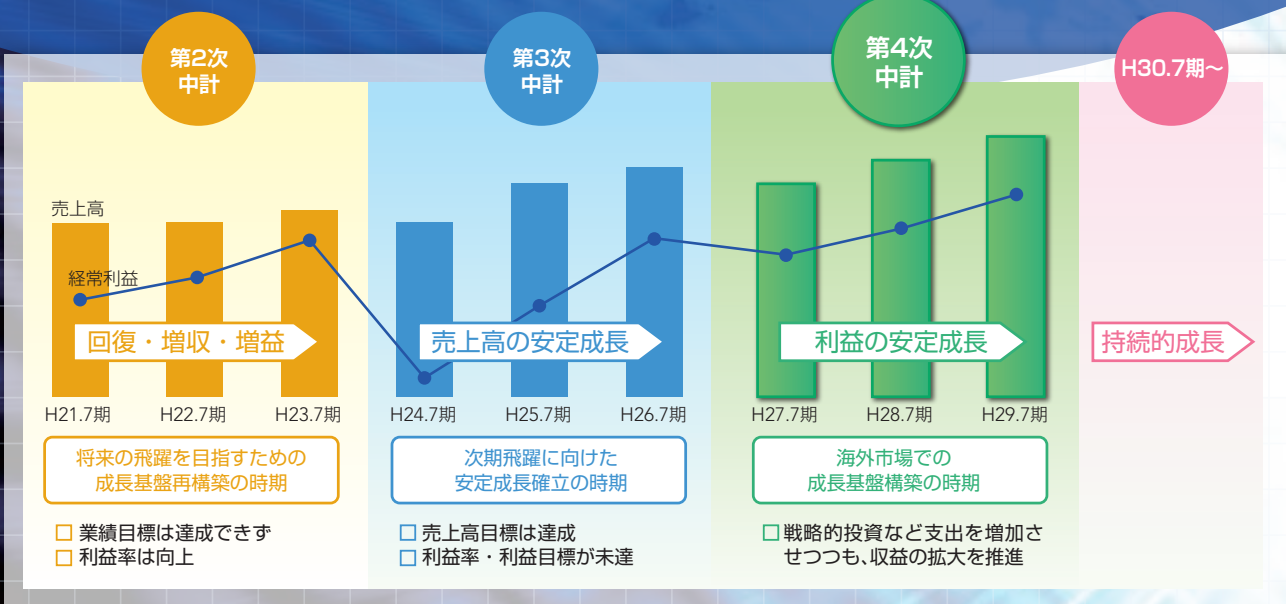
当社は、平成27年7月期から平成29年7月期までの3期間を対象とする『第4次中期経営計画』を策定しました。

当社は、平成26年7月期を最終年度とする『第3次中期経営計画』において、「次期飛躍に向けた安定成長確立の時期」と位置づけ、新規分野と海外市場の開拓を重要課題として、持続的成長に向けて事業領域のさらなる拡大に取り組んでまいりました。

今後はさらに海外市場の重要性が高まっていくものと考えられ、持続的成長を図るためには、国内市場で安定的な業績を確保しながら、海外市場のさらなる開拓を図ることが重要な経営課題

と考えています。このことから『第4次中期経営計画』につきましては、「海外市場での成長基盤構築の時期」と位置づけて、持続的成長に向けた各施策の強化及び業績の向上に取り組み、保守消耗部品を含む海外向け売上高比率は平成29年7月期には20%になる見込みです。

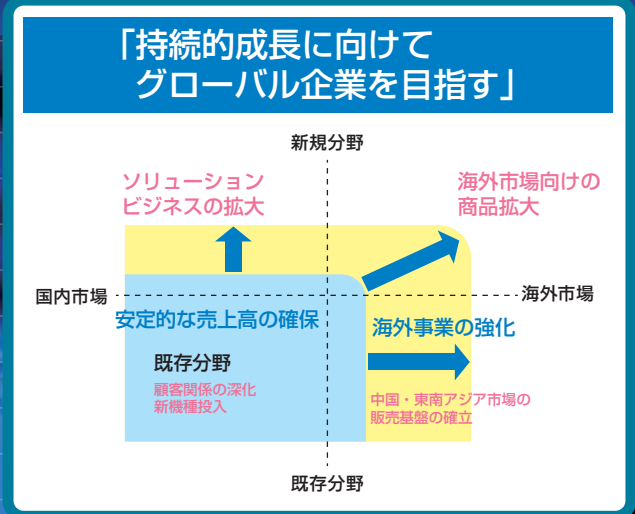
また、数値目標につきましては、第3次中期経営計画の実績では、売上高の安定成長に注力してきましたが、第4次中期経営計画につきましては、利益の安定成長に注力することとし、積極的な戦略的投資など支出を増加させつつも、収益の拡大を図ることを目標としております。



- 1 世界に飛躍する GP ブランド
- 2 One stop で応えるソリューションカンパニー
- 3 挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

経営目標	第3次中計 H26.7期実績	第4次中計 H29.7期目標
売上高経常利益率	4.8%	5.5%以上
ROA (総資産経常利益率)	4.7%	5.5%以上
ROE (自己資本当期純利益率)	5.5%	6.0%以上

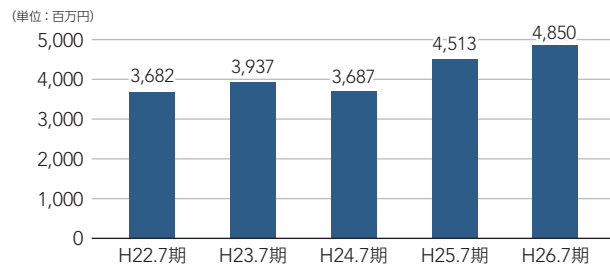
業績目標	第3次中計 H26.7期実績	第4次中計 H29.7期目標
売上高	4,850百万円	5,500百万円
営業利益	229百万円	295百万円
経常利益	234百万円	300百万円
当期純利益	160百万円	200百万円



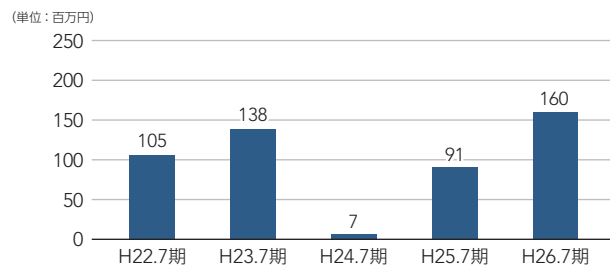
- ### 基本戦略
- 1 顧客関係の深化と新機種投入により、国内市場で安定的な売上高を維持する
 - 2 海外事業を強化し、海外市場向けの売上高の大幅な伸長を目指す
 - 3 顧客の期待にワンストップで応え、ソリューションビジネスの拡大を図る
 - 4 競争力強化と海外市場開拓のための商品開発を推進する
 - 5 顧客が安心して生産活動できる包装システムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
 - 6 事業領域拡大のための M&A・アライアンスを推進する

- ### 販売戦略
- 1 グローバル企業及び国内企業海外拠点への企画提案営業の強化
 - 2 中国・東南アジア市場の販売基盤の確立
 - 3 次世代包装機販売と顧客関係の深化
 - 4 問題解決型企業として、顧客の悩み事に素早く対応
- ### 開発・技術戦略
- 1 次世代包装機及び海外市場向け新機種の開発
 - 2 メカトロモーションの技術の新たな創造
 - 3 新しいコア技術の追求による差別化の推進
 - 4 設計の標準化及び構成部品の共通化を推進
 - 5 人材育成による開発力・トータルプラン力の強化

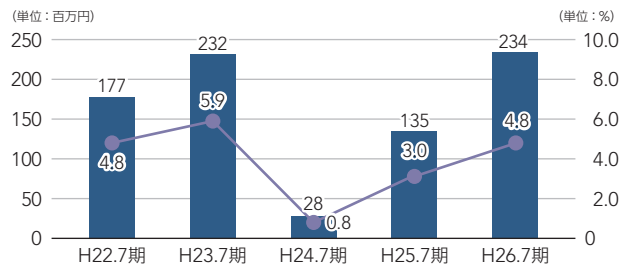
売上高



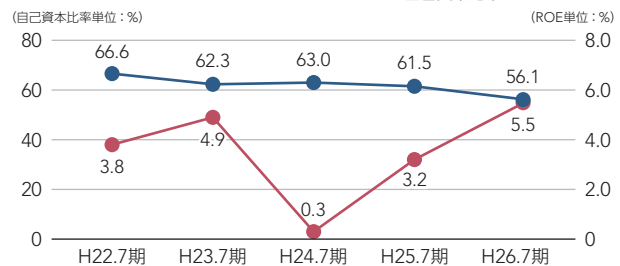
当期純利益



経常利益 / 売上高経常利益率



自己資本比率 / ROE



経営成績に関するの定性的情報

当期におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策の効果による円安や株価上昇が進み、輸出環境の改善や個人消費の回復により企業収益に持ち直しの動きが見られるなど、景気は回復基調で推移いたしました。包装機械業界におきましては、国内顧客企業の設備投資需要に改善が見られるとともに、輸出も増加するなど、回復傾向で推移いたしました。このような状況のなか、当社は新機種の拡販、新たなマーケットの開拓、海外販売体制の強化に取り組んでまいりました。

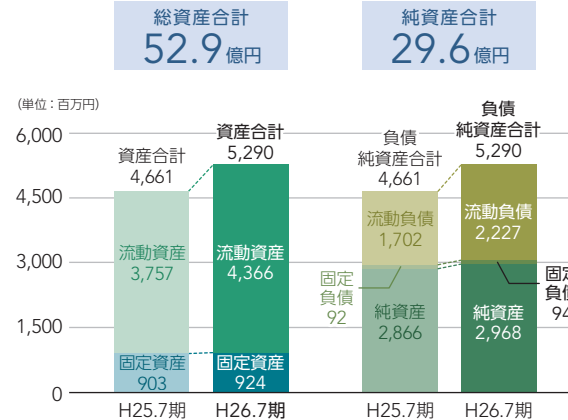
当期の売上高につきましては、給袋自動包装機の販売台数が減少したものの、大型包装システムの販売実績の増加が大きく寄与したことから、前期に対し337百万円

の増収となり、2期連続で過去最高の売上高を達成いたしました。

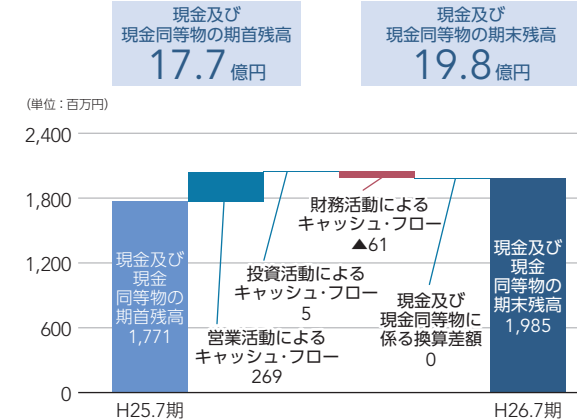
収益面につきましては、販売費及び一般管理費が前期より若干増加したものの、増収効果及び売上総利益率の改善（前期比0.7ポイント上昇）による売上総利益の増加により、営業利益及び経常利益並びに当期純利益は前期に対し増益となりました。

以上の結果、当期の売上高は4,850百万円（前期比7.5%増）、営業利益は229百万円（前期比94.7%増）、経常利益は234百万円（前期比72.8%増）、当期純利益は160百万円（前期比74.7%増）となりました。

財務状況



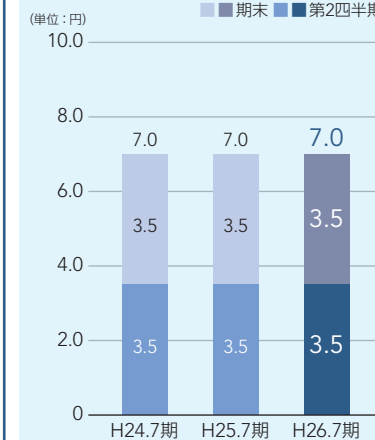
キャッシュ・フローの推移



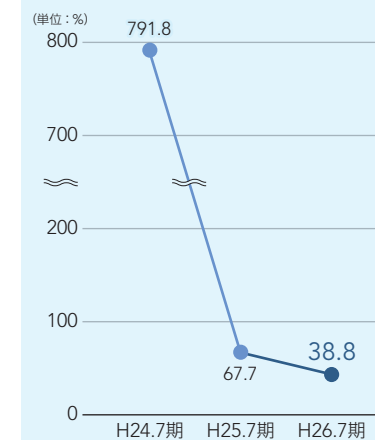
株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向 50%または純資産配当率 (DOE) 2% を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

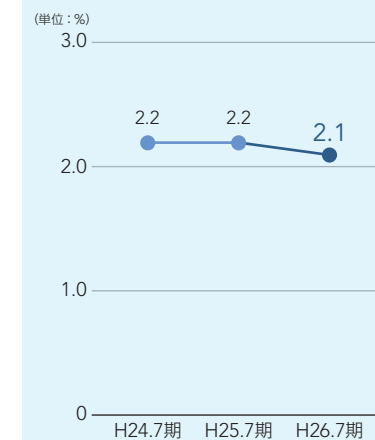
1株当たり配当金



配当性向



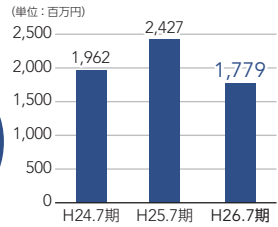
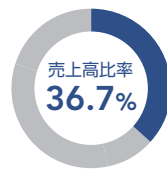
純資産配当率 (DOE)



給袋自動包装機 (ガス充填自動包装機含む)

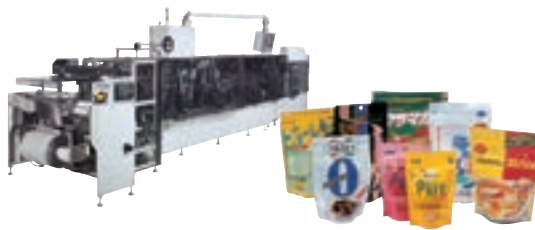


給袋自動包装機は、販売台数が前期より減少したことから、売上高は1,779百万円(前期比26.7%減)となりました。

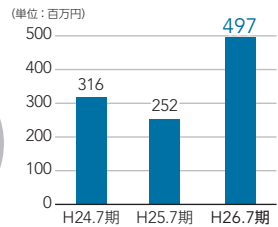


売上高 **1,779** 百万円 前期比**26.7%**減

製袋自動包装機

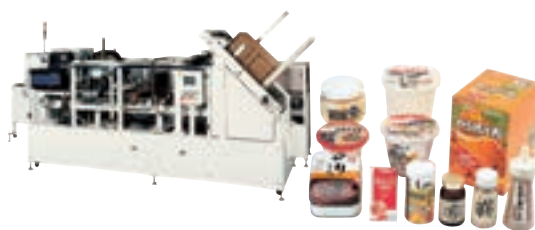


製袋自動包装機は、販売台数が前期より増加したことから、売上高は497百万円(前期比96.8%増)となりました。

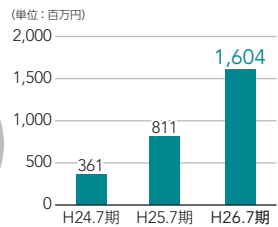
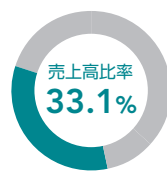


売上高 **497** 百万円 前期比**96.8%**増

包装関連機器等

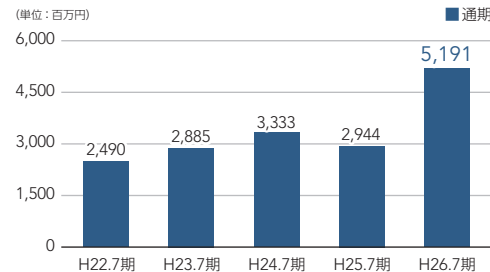


包装関連機器等は、大型包装システムの販売実績が前期より増加したことから、売上高は1,604百万円(前期比97.7%増)となりました。

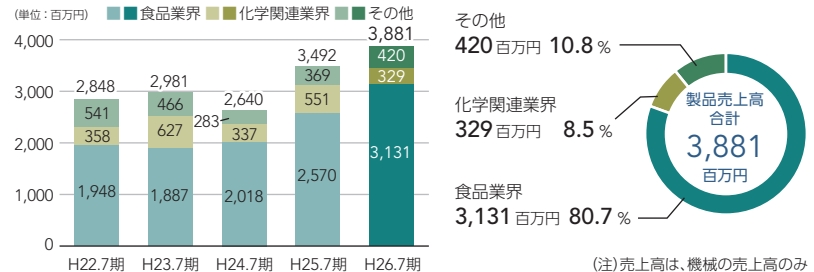


売上高 **1,604** 百万円 前期比**97.7%**増

機械受注高



最終ユーザー業界別売上高



■ 会社概要 (平成26年7月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附随する一切の業務
従業員数	127名
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地 Tel.(0568) 23-3111 (代) Fax.(0568) 22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03) 3256-3891 (代) Fax.(03) 3256-3893

■ 取締役及び監査役 (平成26年10月24日現在)

代表取締役社長	梅森 輝信
常務取締役	小関 幸太郎 管理部 兼 資材部担当
取締役	鈴木 完繁 営業本部長
取締役	池田 勇次 生産部担当
取締役	牧野 研二 開発部長 兼 技術部担当
取締役	尾関 津義 営業副本部長 兼 システムソリューション部長
取締役	濱田 兼幸
常勤監査役	福井 義雄
監査役	村橋 泰志
監査役	浅井 一郎

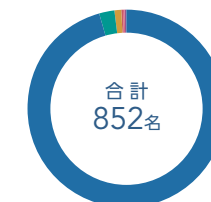
■ 株式の状況 (平成26年7月31日現在)

発行可能株式総数	28,000,000 株
発行済株式総数	8,994,000 株
株主数	852 名

■ 大株主 (平成26年7月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,384,000	15.58
株式会社ワイ・イー・データ	1,350,000	15.20
ゼネラルパッカー取引先持株会	406,000	4.57
原 利子	399,625	4.49
株式会社りそな銀行	392,000	4.41
高野 季久美	364,000	4.09
田中 かな	364,000	4.09
梅森 輝信	241,000	2.71
島末 孝法	196,000	2.20
SHINJIRO HARA	150,250	1.68

株主数構成比



個人・その他	816 名	95.78 %
その他法人	21 名	2.46 %
証券会社	8 名	0.94 %
金融機関	4 名	0.47 %
外国人	2 名	0.23 %
自己名義	1 名	0.12 %

株式数構成比



個人・その他	6,658,006 株	74.03 %
その他法人	1,549,400 株	17.23 %
金融機関	452,000 株	5.03 %
外国人	155,250 株	1.72 %
自己名義	106,218 株	1.18 %
証券会社	73,126 株	0.81 %

IRサイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

http://www.general-packer.co.jp/ir_index.html



日興アイ・アール
新興市場ランキング

3年連続受賞

主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR情報などをご覧ください。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。

ニュースメールにご登録ください

最新のニュースリリース、ホームページの更新情報、IR関連のメールマガジンなどをメール配信するサービスです。(不定期配信)



個人投資家の皆様へ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。



株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店 Tel. (03) 3668-9211 (代)
---------	--

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp/>

各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

包装システムのトータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

●本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市長福寺神明65番地
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222

●東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

